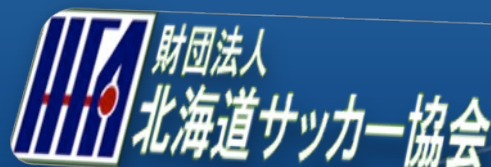


2011 北海道トレセン U-14 秋季交流大会およびエリートキャンプ

【報告者】 國田英一郎(大会総括)
徳田恒徳(エリート)

2011年11月4日～6日

会場：札幌サッカーアミューズメントパーク「SSAP」
東雁来公園人工芝サッカー場(東西)



ブロックの成果と エリートの課題 ～大会を通して見えたもの～



1. 事業の概要

この大会は、U-14の強化の一環として、北海道エリートおよび札幌・道央・道北・道南・道東の5ブロックトレセンによる対抗戦の形式をとって、今年度、U-15から事業転換して行うものである。

エリートは大会前日にトレーニングを実施して大会に臨んだ。また、ブロックはそれぞれ、前日入りしてトレーニングやゲームを行ったり、この大会に向けて定期的にトレセンを開催して臨んでいたりと、それぞれの実態に応じて取り組んでいる。

1日目は3チームごとのリーグ戦、2日目は1日目の結果に応じて上位・下位に分かれてリーグ戦を行った。両日とも11人制である。

結果として、エリート・札幌・道東が上位に進出し、

札幌が1位となった。

札幌が攻守ともに充実したゲームを展開したこと、道東が守備を中心としたチームコンセプトの下に積極的なプレーを随所に見せていたことは、今後のトレセンのあり方に一石を投じた形となった。一方、エリートは個の力が優れていることには違いないが、その個がチームとして機能できていたかという点、それには課題が残る。今後も見据え、選ばれた選手どうしが短い時間でコンセプトを共有しながら、個を発揮できるような取り組みを図っていかねばならないと感じさせられた。



北海道での一貫指導をブロックトレセンから！！
日本代表とオリンピック代表を2015年までに輩出する！！
和歌山国体(2015)までには優勝を！！

2. エリートキャンプ

(1) スケジュール

今回のエリートキャンプメンバーは8月の合宿より選考された16名で行いました。日程は、11月4日から6日までの3日間で初日がトレーニング、2、3日目がU-14トレセン交流大会参加という流れでした。

(2) トレーニングとコンセプト

初日のトレーニングでは、8月の合宿で確認したことを再確認し、チームのベースとしました。大会に向けては、積み上げてきたベースを基に「攻守の切り替え」をテーマに戦いにのぞみました。特に切り替わりの場面で適切なポジションがとれているか、コミュニケーションをとりながらチームとして適切なポジションがとれているかを確認していきました。



(3) 結果

結果は初日、道北ブロックに6対0で勝利、道南ブロックに1対0で勝利、2日目は道東ブロックに2対2で引き分け、札幌ブロックに2対5で敗戦しました。

(4) 成果と課題

成果としては、初招集されたメンバーが多かった中で選手一人ひとりが高いモチベーションを持ちながら、北海道トレセンとしてのプライドを持ち、最後まで戦うことができたこと。攻撃では、意図的に相手を中心に集めさせて、サイドを崩し、クロスから得点に結びつけるケースが何度かつくることができたこと。

課題は、テーマにしていた攻守の切り替えのスピードが相手よりも遅く、攻守で数的不利な場面が多かったこと。特に攻撃ではサポート



の距離や角度、タイミングの悪さから相手に限定されながらのボール運びが多く感じました。また準備では1stディフェンダーのポジションが悪く、相手を自由にプレーさせてしまった場面が多く見られました。

(5) 今後に向けて

指導者側としては、コーチがトレーニングやミーティングで明確なコンセプトを伝えることができず、個の能力のみで戦わせてしまったところが一番の反省点です。

指導者も選手もこのブロック交流大会での敗戦を生かして、次に向けてしっかりと準備していきたいと思います。

エリート参加選手

札幌 11名 道央 1名 道南 2名 道北 1名
道東 1名 計 16名

3. 大会総括と今後のユース育成

ユース育成の主眼は個の育成であるが、個がチームで生かされなくてはならない。これは、所属チームでもトレセンでも変わらない。

優勝した札幌ブロックは、強豪チームがひしめく環境であると同時に、トレセンにおいても近年、定期的かつ回数を多く実施して個の強化を図っていると聞いている。また、道東はトレセンマッチデーと並行して道東エリートトレセンを実施し、この大会を一つの目標としながらコンセプトの共有と個の強化を図ってきた。これらは一つの例であるが、今大会における取り組みの成果として顕著であった。

北海道のユース育成の成果を国体で表すことを目標の一つとしているが、他県とはちがった北海道のやり方のヒントがここにあるのではないだろうか。広域に選手を育成し選抜することができるのが北海道の強みである。しかし、現状は選考された選手がコンセプトを共有するまでに時間がかかり、個が生かされないままになっている。

短いキャンプの期間でも個が発揮できるような取り組みを進めていかなければならない。オール北海道の指導者・選手・関係者が切磋琢磨し、アイデアを出し合って目標を達成したいと思う。